

本日ここに○○山○○寺第十六世○○大和尚さまの津送を営まれるに当たり壇信徒一同を代表してお別れの言葉を捧げます。

私共壇信徒に取りまして大和尚さまのご遷化は夢の様な出来事で信じ難いおもいでございます。

八月のおせがきの折りには、お元氣な温顔に接したばかりでありましたのに、いまここに追悼の言葉を捧げなければならぬ事は、まことに痛恨の極みでございます。

思い起こしますれば昭和○年○月○○寺十六世として御晋山いただき、世界大戦に依つて焼失した本堂庫裏の再建にいち早く着手し、○年には仮本堂庫裏が落成されました。

お休み頂くひまも無く、○年には名古屋市の都市計画による墓地移転という大事業に当られ私共の祖先の霊は今日、平和公園○○寺墓地に永遠の涅槃をいただいております。

その後、社会の情勢経済の成長と共に昭和○年現在の本堂新築の大事業に着手され、見事な○○殿が完成慶法要が厳修されましたのが昭和三十九年でございます。大和尚

さまは誠に識見に秀れ禅僧として御高德なお姿のなかで、ご本山の公職も勤められました。

また、昨年は開山参百年の遠忌法要も厳修され諸堂の整備は旧觀をしのぐものがござい

ます。日頃は私共壇信徒に対して、あるときははきびしく、あるときは慈愛に満ちた温顔でご指導をいただき、常日頃深くご信心を申し上げておりました。

その柱とも杖とも頼む大和尚さまを亡いました事は、無常なるは世のならいとは申せ、残念でなりません。

大和尚さまが五十五年間にわたって寺門の護持興隆に御尽瘁いただいたご功績に壇信徒一同心から厚く御礼を申し上げます。追憶は走馬灯の如く尽きませんが、大和尚さまが

常々私共に御教示下さった言葉の「随所に主となれ」という禅の根底に徹する教えを杖として今後寺門の興隆に壇信徒一同力を合わせ精進いたします事をお誓い申し上げます

幸いにも現在職良導和尚さまのご人徳と奥様方のお力添えに依りまして当山の興隆発展は約束されております。大和尚さま、どうぞお心安らかに涅槃に入り賜らんことをお祈り申し上げてお別れの言葉といたします。

平成○年○月○日

○○○山○○○寺

壇信徒総代

○○○